

【運営方針3】研修カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】新規就農から農業経営者の育成まで発達段階に応じたカリキュラムの強化						
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策	
1	就農準備段階から新規就農者の定着までの幅広いニーズに対応した研修の実施	(1) 定員充足率 :80%	<p>① 経営の発展段階に応じた研修の実施【継続】</p> <p>新規就農を志す者を対象に、就農に必要な実践的な栽培技術と知識を習得する「新規就農支援研修」「働きながら学ぶ農業入門講座」を実施する。また、就農5年目程度までの農業者等を対象に経営に必要な経営力を学ぶための研修として「農業経営力養成講座」を実施する。</p> <p>そのほか、農業及び林業の体験からスマート農業等新技術の展示や地域農業のリーダー経営体育成を目的とする研修まで、動機づけ段階から経営発展・確立段階までのそれぞれのニーズに対応した各種研修を実施する。</p>	<p>・新規就農希望者を対象として、優れた農業経営者による講義や試験研究機関での実習と当校での講義等を組み合わせた1年間の長期研修「新規就農支援研修」を受講者34名、他研修機関聴講生12名で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、一部日程の変更も行いながら実施した。</p> <p>・就農希望の他産業従事者を対象として、稲作・野菜・果樹の3コースで専門知識を学ぶ「働きながら学ぶ農業入門講座」を実施した。コロナ禍の影響のため、開催日の変更を行いながら実施した。稲作コースは南陽市を中心に受講者各12名で6回実施、果樹コースは天童市を主会場に受講生35名、7回実施し、野菜コースは村山市において受講生16名で7回実施した。</p> <p>・経営力養成講座では「事業計画作成支援研修」は37名が参加し、「経営マネジメント研修」は17名の参加となった。なお、「農業簿記ソフト活用研修」は令和4年1月以降の新型コロナ感染拡大を考慮し開催を中止とした。</p> <p>・スマート農業等新技術の展示は、農林大の授業を公開講座として4回実施予定であったが、コロナ禍のため、3回のみ公開とし、研修生中心に延べ16名の参加となった。</p> <p>* 定員充足率は、「新規就農支援研修」が92%、「働きながら学ぶ農業入門講座」が90%、「経営力養成講座」は135%となり、平均106%であった。目標の80%を上回ったことから、「B」評価とする。</p>	<p>(1) 研修定員充足率 ・・・B(106%)</p> <p>・新規就農支援研修 :92%</p> <p>・働きながら学ぶ農業入門講座 :90%</p> <p>・経営力養成講座 (開催中止除く) :135%</p>	<p>・「新規就農支援研修」の受講生は、新規就農を目指して研修に参加していることから、就農定着に向けて、円滑な農業開始が図られるよう、関係機関・団体と連携した支援を継続する。今年度、研修開始後に家庭の事情により研修を辞退した研修生もいたことから、研修開始前に、研修や就業に必要な条件や準備内容についての説明を強化して、研修生の確保に当たる。</p> <p>・「働きながら学ぶ農業入門講座」の稲作コースは、3コースの中で、参加者が少ないうえ、置賜地域に偏りがちであるため、本県のほぼ中央にある村山地域に会場を変更して受講者確保を図る。また、コロナ禍の中で、開催が危ぶまれる場面もあることから、集合研修を基本としながらも、必要な場面ではリモートも視野に入れて開催方法の検討を行う。</p>
2	企業的経営体の育成や新分野の事業展開を支援する研修の実施	(1) 定員充足率 :80%	<p>① 企業的経営体（リーダー経営体）の育成支援【拡充】</p> <p>生産力・収益性の高い経営者でありながら、スマート農業等の先進技術の導入や、多様な人材の活用、労働環境の改善等、地域づくりや人づくりができる地域農業のリーダー経営体の育成を目指し、経営管理、労務管理、事業計画作成をはじめとした高度な経営手法等を学ぶ「やまがた農業リーダー育成塾」を実施する。</p>	<p>・本県農業を牽引するリーダー経営体の育成を目的とする「やまがた農業リーダー育成塾」については、事業計画策定方法、経営理念の理解、マーケティングや労務管理の進め方、スマート農業等の先進事例の理解等を通じてのリーダー経営体として必要な知識やスキルを習得する全10回の研修(受講生13名)を計画した。コロナ禍の影響により一部開催日を変更し、リモート研修を活用しながら、ほぼ計画に沿った研修を実施し、全ての受講生が事業計画を作成し、その発表が出来るように支援を行った。また、専門家による事業計画へのコンサルティングを行い、経営発展のための個別支援を実施した。</p>	<p>(1) 定員充足率 ・・・C</p> <p>・やまがた農業リーダー育成塾 :130%</p> <p>・アグリウーマン塾 :80%</p> <p>・農業ビジネス支援研修 :1回70%</p>	<p>・当講座は、リーダー経営体として必要な経営スキルやスマート農業等の先進事例を学び、受講生自身の中長期的な事業計画が作成できるように講座カリキュラムでおり、令和3年度は各講座の出席率も高く、全員が修了の見込みである。令和4年度についても本県の農業を牽引するリーダー経営体育成に向け、農業技術普及課と連携しながら、当講座受講生の支援を強化していく。</p>
		(2) 各塾の修了率 :90%	<p>② 女性農業者の育成支援【継続】</p> <p>若い女性農業者が、新たな事業展開等に意欲的に取組み、自らの経営部門を持って活躍できるよう、実践的な販売力や経営力の習得を支援する「アグリウーマン塾」を実施する。</p>	<p>・「アグリウーマン塾」については、女性の感性を活かしたビジネスプランの策定を目指し、課題の抽出や解決に向けた対応方法、ビジネスモデルの組立等を実践的に学ぶ全6回の講座(講義、演習)を計画し実施した。リモートによる研修も織り交ぜながら、女性の受講者だけでなく、その家族の同席を促すことで、受講者が所属する経営体としての理解の促進を図った。受講生は令和4年1月に事業計画の発表を行い12名中10名が受講を修了した。</p> <p>・これまでの修了生を対象に、研修修了後のフォローアップ研修会を県内3ブロックで開催し、事業実施の進捗状況や実行しての課題への対応策などをきめ細かな助言・指導を実施した。</p>	<p>・やまがた農業経営実践塾 :100%(見込)</p> <p>・アグリウーマン塾 :83%</p>	<p>・塾における課題への取り組みや参加者同士の意見交換を通して、受講生の意欲向上が図られており、普段孤立しがちな女性農業者の交流にも繋がっている。家庭事情による欠席が他研修より多く、欠席が続くことで受講辞退に繋がっていることが現状である。修了率向上に向けて、普及課と連携し、欠席した受講生に対するフォローアップを強化していく。</p>
			<p>③ 6次産業化や新分野導入等への支援【継続】</p> <p>乳製品加工施設を活用しながら、乳製品の加工・販売を目指す農業者等を対象に、チーズの基礎的知識と製造技術までを学ぶ「乳製品加工研修」を実施する。</p>	<p>・チーズの製造加工を目指す農家等を対象として、チーズ製造の基礎知識や製造実践技術などを学ぶ農業ビジネス支援研修「チーズ加工研修」を計画した。コロナ禍の中で、研修実施に苦慮したが、チーズの製造販売を目指す者に対する乳製品加工施設を活用し、11月に1グループ7名に対し、研修を実施した。また、2月末にチーズ加工流通に係る研修会を予定していたが、令和4年1月からの新型コロナウイルス感染者急増を受け、中止した。</p> <p>* 定員充足率は、「やまがた農業経営実践塾」が130%、「アグリウーマン塾」が80%、乳製品加工研修が70%となり、平均93%と目標の80%を達成したことから、「C」評価とする。</p> <p>修了率は、「やまがた農業経営実践塾」が100%の見込み、「アグリウーマン塾」が83%となり、平均92%と目標の90%を達成の見込みであることから、「C」評価とする。</p>	<p>(2) 修了率 ・・・C</p> <p>・やまがた農業経営実践塾 :100%(見込)</p> <p>・アグリウーマン塾 :83%</p>	<p>・新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、チーズの製造加工を目指す農家等を対象として、チーズ製造の基礎知識や製造実践技術などを学ぶ研修を実施するとともに、チーズ等加工品の流通等を含めた、集合研修も企画し、農林大農産加工経営学科の学生の参加も配慮しながら研修を実施する。</p>

自己評価	自己評価
<p>・新規就農を志す者、新規就農者、就農定着段階の農業者と経営の発達段階に応じた研修を行い、参加者の知識やスキルを高めることができた。特に、「新規就農支援研修」については、地域のリーダー的な農業者や試験研究機関、農業技術普及課、市町村、JA等関係者や関係機関が連携し、地域農業を担う意欲的な新たな農業者の育成を図ることが出来たと考えられる。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来の交流会が行えず、研修生相互の交流や研修生の仲間づくりの点では、十分でなかった。</p> <p>・農業者の経営力向上・新分野事業展開を支援する研修については、コロナ禍にありながら、経営発展に意欲的な若手農業者や女性農業者に対し、事業計画作成を中心に経営発展に必要なスキル習得に向けて支援することが出来たと考えられる。ただし、こちらも、対面での交流が十分に行えず、仲間づくりの点ではやや課題を残した。</p> <p>・コロナ禍の中でも、感染対策を徹底し、研修を実施することができたことは大変良かったと考えられる。研修生からは、「理解が深まった。」「参加して良かった。」「現場で活用したい。」との声が寄せられており、好評であった。今後も、受講者の要望等を把握し、研修カリキュラムのブラッシュアップを図っていきたい。</p>	<p>C</p>

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<p>・アグリウーマン塾:主体性を持って取り組んでいる女性が増えていることを実感する。遠隔授業があったら、都合のいい時に視聴ができれば、仲間づくりは直接会えた方がよいものだから。→アグリウーマン塾は、受講生が経営参画のスキルを習得するだけでなく、女性農業者の仲間づくりの促進も、その目的の一つとして実施しております。しかしながら、令和3年度は、一緒に農業を行っているご家族が同席し易いよう、さらに、新型コロナウイルス感染防止対策のため、自宅もしくは最寄りの農業技術普及課から参加するリモート研修の形で6回中3回実施しています。また、どうしても参加できない受講者に対しては、管轄の農業技術普及課の担当者がフォローアップし、欠席分の研修内容を補っています。令和4年度についても、引き続きリモート研修や農業技術普及課の担当者がフォローアップを実施しながら、研修効果の増進に努めて参ります。</p>	<p>・今年度の研修は、定員に対する充足率が高く、開催場所や内容についての工夫と普及課等との連携によるPRや参加者確保活動が功を奏したものと想像しています。</p> <p>・リーダー育成塾やアグリウーマン塾の修了者は、今後の農業や農村を担う人たちだと感じています。新たなメンバーの掘り起こしと塾生のネットワーク構築などを引き続きお願いします。</p> <p>・研修部の実施する研修や参加している塾生の皆さんは、やまがた農業支援センターが実施している新規就農者支援事業や経営相談所、6次産業化サポートセンターの業務と密接な関係にありますので、引き続き連携した活動ができるようにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>・卒業後参加できる学習の場に出て、人のつながりや仲間づくりを大切に。</p> <p>・試験場や農業技術普及課、市町村、JA等と連携し実施する農大の研修カリキュラムは、新規就農者や農業経営者にとって、とっつと心強いです。特に、リーダー経営体の育成支援は先進技術を習得するとても良い機会だと思います。</p> <p>・研修や各講座等、多くの受講生に参加していただき良かったと思います。今後も期待します。</p> <p>・リーダー育成塾修了生たちでの組織の研修会に参加させてもらったが、修了生たちの大変レベルの高い意識に感心しました。大変良い傾向です。</p> <p>・今の農業は、物がありふれていて作れば売れる時代でもないの、経営のノウハウや販売戦略を学生のうちから学べる機会があるのはとても素晴らしいと思う。</p> <p>・林業に関しては、残念ながら自伐林家が、少ない事もあって経営者の育成、経営管理については、弱点と言わざるを得ない。ただ、林業の基本は循環であり、長期にわたる「山づくり」の基本理念の習得のための研修は特に実施して頂きたい。</p> <p>・就農してからの研修はあってもなかなか行けない時が多いので、特に女性を対象にした研修は良いことだと思います。</p>	<p>C</p>